

「サラダ記念日」を読む

連作短歌を小説として読む

読んでみた感想は

- 最初の方にすでにわかれを感じさせる言葉が出てきているので楽しい思い出でも僕は素直に喜んで読めない。

- 作者はよくこんな連作をするなあと思った。長い時間の流れを季節をいくつも過ぎながら。ごくありふれた日常の内容だったから、逆に共感とたくさんできて読みやすかった。難しい言葉や意味深な言葉よりも自分たちの目線から見た言葉の方が多くて、親しみたいなのを感じた。

- 一行一行の何気ない気持ちなども大事な意味をとげているようで、その時の微妙な心の変化が続けて読むとわかる。

- 今回ののは、何となくわかるものもあってよかった。小説にするのは、とても難しかったけど何度も読み返してみると、時を感じた。短歌じゃないみたいで読みやすかった。

- 現象に対する感じ方が普通すぎてひとつひとつの内容は中学生や小学生の作る詩や短歌の方がよい。

- 一首一首があまり印象がないけど、全体として見るとすごくいいと思います。意識的に構成を考えて作っているもので、そういうのも見つけるのが楽しいです。わかりやすいように書いてあるけど、以外に奥が深い短歌だと思いました。

- あまり深く考えるより、パツと思いついた表現が短歌の内容に何となく合っているものが多かった。

- グループでやったのがよかった。一人でやってたら何もわからずに終わっていきそだった。

- 一首一首がすごく日常的で情景を連想しやすい。変な重みとかをあまり感じないし、どんな人でも歌の内側に入り込めると思う。

- 短歌を小説にするのは難しかった。けど、じっくりと読むことができてけっこう感心したりするものもあった。やっていくうちにも楽しくなってきた、どんどん話が長くなってきたりした。こういうのも悪くないなと思った。

- カギかつこが使われていて、何を話しているのかもわかった。切ない物語だなあと思った。

- だれもが思うことを突いてくる物語だと思う。むだな言葉はいっさい使用せず、素直に文に表してくるので、すごい人だと思った。

- 教科書で一首一首学ぶのと違って、前後の関連性を見つけたたり、句と句の間にはどんなことがあったんだろうと想像できるのもおもしろくてよかった。

- 読んでいてこの気持ちわかる！とか、同じこと思ったことがある！っていうのがけっこうあった。すらつと読めて、それによって気分が軽くなったり、同じように悲しくなったりする短歌だと思った。この人の他の本を読んでみたくなった。

- かわいらしい所もあれば、悲しいところやちょっと寒気のある言葉もあるけど、気持ちを素直に表していてとても女らしさを感じた。見習いたいと思った。

- みんな「サラダ記念日」という同じ文章を読んでいたのに、その班ごとで言葉のとらえかたが全然違うのにとっても驚いた。一つの言葉にいろいろな意味や思いが入っているから、言葉のとらえ方の違いでたくさんの種類の小説ができるのがすごく不思議だなあと思った。

- 彼と出会った人生を、エスカレーターのすれ違いのように表現している部分が悲しみと重みを感じた。